

健康ぷらざ

No.279

企画:日本医師会

たい じょう ほう しん

帯状疱疹

—— かかりやすいのは高齢者だけではありません。

子どもの頃に水ぼうそうにかかると、

治ったあとも水ぼうそうウイルスが神経の中で眠っています。

年をとったり、疲れたり、他の病気で体が弱ったりすると、

ウイルスが活性化して帯状疱疹を引き起こします。

一方、初めて水ぼうそうにかかったときにつくられる

「免疫記憶細胞」が、体内の水ぼうそうウイルスを抑えています。

一般にその効力は20年ぐらいで弱まりますが、

子育てなどで子どもの水ぼうそうに接すると戻ってきます。

つまり、免疫記憶細胞の効力が弱まり、

まわりにも水ぼうそう患者が少なくなる20歳代、50歳代の頃が

帯状疱疹にかかりやすくなるのです。

あとに痛みが残る帯状疱疹後神経痛は約3%の発生率ですが、

無理をすると重症化して、若い人でも神経痛が残る場合もあります。

帯状疱疹の症状があったら、早めにかかりつけの医師に相談しましょう。



左右のどちらかの皮膚にピリピリ、チクチクした痛みがあり、
 帯状に腫れた赤い斑点ができる。その斑点は1、2日後に
 水疱(水ぶくれ)となり、4、5日まで拡大し、7~8日で膿疱
 となってから破れ、3週間ほどでかさぶたとなって自然に
 治る。初期に重症だと帯状疱疹後神経痛を発症しやすい。
 (写真は腰の症状)

指導:東京慈恵会医科大学附属青戸病院皮膚科教授 本田 まりこ

◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。